

## PF懇談会新会長挨拶

### PF懇談会の会長に就任して

PF懇談会会長 雨宮慶幸（東大・新領域）

佐々木聡前会長からバトンを受け取りまして、この4月から2年間、PF懇談会会長を仰せつかることになりました。よろしくお願い致します。私は平成12、13年度にPF懇談会会長を務めましたので、実は、今回この役を再度引き受けることに逡巡しました。「本人は卒業したつもりが実際は単位が足りず卒業していなかった」というケースに近いのかな、と思ったりもしました。しかし、過去14年間にわたってPFスタッフとしてPFにお世話になりましたので、PFのために些かでも貢献できればとの気持ちで、引き受けることに致しました。「また？」との印象を持たれる方もいらっしゃるかも知れませんが、新たな気持ちで取り組みたい（卒業単位を修得したい）と思っていますので、よろしくお願い致します。

この4月から国立大学が法人化するとともに、高エネルギー加速器研究機構も法人化され、新しい仕組みが出力しました。この節目をいかにポジティブな結果の導出に繋げていくかについては、走りながら考えていかねばならない問題が色々あると感じています。PF懇談会のあり方も、この節目の影響を何らかの形で受ける可能性があり、その場合は、どのような変化を成すべきかについて、リアルタイムで考えて行く必要があるかと思っています。

各幹事は次の方々をお願いしました。

利用幹事：佐々木聡（東工大）、高橋敏男（東大）、  
宇佐美徳子（PF）、斎藤智彦（理科大）

行事幹事：佐藤衛（横市大）、間瀬一彦（PF）

庶務幹事：田中雅彦（PF）

会計幹事：土屋公央（PF）

広報幹事：桜井健次（物材研）

編集幹事：一國伸之（千葉大）

利用幹事は人数を4名に増やすと共に、前会長の佐々木さんにも加わって頂きました。各幹事の協力を得て、円滑な共同利用の維持・発展という現在の問題と、将来の問題（PFの将来計画）を具体的に議論する機会をタイムリーに持っていきたいと考えています。

ところで、PF懇談会の存在意義は何か？ PF懇談会のメンバーであることのメリットは何か？ という議論が常にあります。私は、常々、「PF懇談会は、安全弁のような存在、または、空気のような存在」だと言ってきました。つまり、PFでの共同利用実験が順調に進んでいるときは、目立つ必要のない存在であると言う意味です。具体

的には、PFとユーザーのcommunication（懇談）、ユーザー間のcommunication（懇談）が円滑に行われている限り、また、PFの運営が円滑に行われている限り、PF懇談会は特に表立って活動をしなくても良いと言う意味です。しかし、最近は少し考えが変わってきました。「存在する意義が大きい」と、ユーザーとPFスタッフの両者にとって感じられる「空気のような存在」にならなければいけないのでは、ということです。20年以上の歴史を経過したこともあり、変えなければならない項目、それと同時に、変えてはならない項目をしっかりと見極めて、今後のPFのあり方を議論する受け皿としてのPF懇談会の重要性を感じています。換言すれば、節目であるので、時代の流れに乗るべく努力する項目と、流れに乗らないで貫く努力をする項目を、しっかりと議論しなければと思います。

PF懇談会の存在意義は、基本的にはユーザーとPFスタッフとのcommunication（懇談）の場であると思います。そのためには、次のようなことを行っていきたいと考えています。

- 1) PFの将来計画に対する議論の活性化
- 2) ユーザーとPF間のメッセージボードの役割強化
- 3) ユーザー間のメッセージボードの役割強化
- 4) ユーザーグループの活動の活性化
- 5) 学生・新規ユーザーのための基礎講習会の開催
- 6) 他の放射光施設・利用者団体との情報交換
- 7) 会員名簿（2005年版）の発行

基本的にはこれまでのPF懇談会のポリシーの継承ですが、これらのポリシーに基づいて具体的な活動を如何にタイムリーに行うか、が問われているのだと思っています。

小間所長、松下副所長、野村主幹、河田主幹、春日主幹をはじめとするPFスタッフとの情報のすり合わせ、各ユーザーグループを通してのユーザーの意見の吸い上げを行いながら、PFの持続的発展に貢献できるPF懇談会を目指したいと思いますので、皆様、よろしくお願い致します。